令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　足立　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の3つの領域の中では、「話すこと・聞くこと」の領域が、全国との正答率より高かった。「書くこと」の領域では、全国の正答率よりも低かった。文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることに課題が見られた。文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることへの理解は、全国との正答率より高かった。
	よくできた問題	話し言葉と書き言葉との違いを理解する問題や、必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題は、全国の平均より高かった。
	努力が必要な問題	登場人物の行動や行動や気持ち、人物の相互関係について、文章を基に捉える問題が、全国との正答率より低かった。

算数	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の4つの領域の中では、どの領域も全国との正答率より低かった。特に「図形」や「変化と関係」の領域に課題が多く見られた。正三角形や長方形、ひし形、平行四辺形の意味や性質、構成の仕方についての理解に課題が見られた。また、割合の問題についても課題が見られた。どの設問に関しても、無回答の児童は一人もいなかった。
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量が比例関係であるあることを理解し、未知の数量を求める問題は、全国の平均より高かった。
	努力が必要な問題	百分率で表された割合を分数で表したり、数量が変わっても割合の比率が変わらないなどの割合の意味を捉える問題が、全国との正答率より低かった。

理科	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の4つの領域の中では、どの領域も全国との正答率より低かった。特に「粒子」や「生命」を柱とする領域に課題が多く見られた。メスシリンダーという器具の名称や液面のメモリの読み方、実験の結果を表から読み取り、自分の考えをもつことに課題が見られた。また、テントウムシが卵から幼虫になり、さなぎになって成虫になるという情報を問題文から読み取り、自分でまとめるような記述の問題に課題が見られた。
	よくできた問題	太陽の位置の変化に合わせて、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、鏡の向きを変える記述の問題は、全国の平均とほぼ同じであった。
	努力が必要な問題	昆虫の育ち方と主な食べ物の表から、他者が気づいたことを基に分析し、自分の考えをもつ問題が全国との正答率より低かった。表や問題文をよく読み、何を問われているのかについて、意味を理解することに課題が見られた。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
アンケートの結果から、充実した学校生活を送ることができている児童が多いと考える。また、算数、理科の学習を好きと感じている児童は多いが、国語は半数ぐらいはどちらかと言えば好きではないと感じている。自分の考えをまとめる活動や、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動に課題を感じている傾向にある。特に、本校の特徴と考えられる質問項目は、以下の通りである。 ○学校に行くことや友達と協力することが楽しいと思っている児童は、全国平均より多い。 ○学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると答えた児童は、全国平均より多い。 ○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思っている児童は、全国平均より多い。 ○先生が、自分のよいところを認めてくれていると思う児童は、全国平均より多い。 ●各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ってきたと思っている児童は、全国平均より少ない。 ●学校の授業時間以外の、平日や休みの日の1日当たりの勉強時間については、全国平均より少ない。 ●将来の夢や目標を持っていると答えた児童は、全国平均より少ない。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

1時間の授業の中に、自分の考えを「書く」活動、「話し合う」活動を位置付けるだけでなく、「自分の考えをまとめる」活動を取り入れるようにする。また、自分の考えをまとめる際にも、GIGA端末等の思考ツールやプレゼンソフト等を効果的に活用し、授業の流れ「足立スタンダード」を徹底しながら、授業改善に取り組んでいく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

学校の授業時間以外での家庭学習の充実を図るために、家庭学習における課題への向かわせ方や内容、量を見直していく。「受けた授業が自分に合った教え方になっていると思う。」と答えている児童は多い。このことから、今後は、学校での学びをAIドリルやプリント、自主学習ノート等を効果的に活用しながら、しっかりと定着させていく。